

産地戦略

実施期間 令和7年度

実施主体 伊達地域果樹産地協議会
 都道府県 福島県
 対象地域 伊達市、桑折町、国見町
 対象品目 もも、かき、ぶどう



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	● 温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

伊達地方の主要果樹品目であるもも、かき、ぶどうについて、果樹園の草生管理のために使用されている乗用草刈機等を自律走行無人草刈機（以下、「ロボット草刈機」とする。）に転換する。これにより、化石燃料の使用量を削減して地球温暖化の原因である温室効果ガスを削減する。また、作業に要する労働時間を削減して高齢化が進む当産地を持続可能なものにする。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	草刈り												栽培マニュアルに記載している場合は、「栽培マニュアルに記載のとおり」等として省略可
技術名	乗用草刈機（期間中6～12回）												



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	草刈り												栽培マニュアルに記載している場合は、「栽培マニュアルに記載のとおり」等として省略可
技術名	ロボット草刈機												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	799	▶ 810	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 5	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 5	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	乗用草刈機等による草刈り作業	▶ ロボット草刈機による草刈り作業	化石燃料の使用量の低減 労働時間の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	草刈り作業時間（10aあたり、年間）	6～12時間	▶ 15～90分	現状値は生産者7名からの聞き取り 目指すべき水準は実証結果から算出
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

生産者に導入マニュアルを配布し、技術の普及推進を図る。
生産者への経営指導時や、各部会活動において、実証結果をもとに技術の普及推進を図る。
必要に応じて、技術導入に要する経費に対する補助金交付を検討する。

関係者の役割

関係者名	J Aふくしま未来・伊達果実農協	伊達市・桑折町・国見町	県北農林事務所 伊達農業普及所	
役割	導入マニュアルの配布による情報発信、各部会活動における普及推進、必要に応じて補助金交付の検討	導入マニュアル等を活用した情報発信、必要に応じて補助金交付の検討	導入マニュアル配布及び経営指導時における普及推進	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R12）（ha）	備考
ロボット草刈機	除草	5	

その他

ロボット草刈機の導入後は、優占草種が変わり有機物の土壌還元量が減少する可能性があるが、近年頻発する高温・干ばつへの対策として、引き続き有機物を土壌に投入し保水性の向上を図る必要がある。そこで、令和8年度以降は次の内容について検証のうえ、併せて導入を推進していく。

- ・せん定枝を活用したバイオ炭の生成
- ・電動オーガを活用した深耕の実施とバイオ炭の施用